

授業科目名	演劇教育論	担当教員	平田 知之 石井 路子
必修の区分	選択		
単位数	2単位		
授業の方法	講義		
開講年次	3年第3クォーター		
講義内容	演劇を活用した教育を支える理論と実践について、最新の動向を実践的に学ぶとともに、文献を活用して、通時的、共時的な理解を深め、エビデンスに基づいたワークショップの企画提案する力を身につける。		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演劇を活用した教育が、どのような理論の積み重ねの上に成り立っているのかを通時的に理解する。</li> <li>・演劇を活用した教育の意義を、エビデンスをもとに説明できるようになる。</li> <li>・理論に支えられた、演劇を活用した教育の企画を、現場に合わせて提案できるようになる</li> </ul>		
授業計画	第1回 オリエンテーション 社会構成主義と演劇教育 第2回 アメリカのドラマ教育、クリエイティブ・ドラマ 第3回 イギリスのドラマ教育 Drama in Education 第4回 ブレヒトの教育劇 第5回 非抑圧者の演劇 第6回 新教育と学校劇運動 第7回 戦後の学校演劇 特別活動、部活動、総合的学習 第8回 21世紀の新学力観と演劇教育 第9回 芸術家と協働した演劇教育の理論 第10回 芸術家と協働した演劇教育の企画 第11回 芸術家と協働した演劇教育の評価 第12回 まとめと振り返り		
事前・事後学習	事前 デューイの著作を一冊、目を通しておく 事後 各自の文献リストを毎回アップデートしてレポートする		
テキスト	『ドラマ教育入門』（小林由利子 他、2010 図書文化） 上記以外に、各回の授業において資料を配付する		
参考文献	『学校と社会』（デューイ、1957、岩波文庫）『経験と教育』（同、2004、講談社学術文庫） 『非抑圧者の演劇』（アウグスト・ボアール、1984）ほか		
成績評価の基準	平常点（ディスカッションや協同作業への参加）60% レポート 40%		
履修上の注意 履修要件			
実践的教育	該当しない。		
備考欄			